

民生福祉常任委員会視察報告

日 時 平成 27 年 5 月 8 日 13 : 00 ~ 16 : 30

場 所 下関市次世代育成支援拠点施設「ふくふくこども館」(所管こども未来部家庭課)

参加委員 下瀬俊夫委員長 矢田松夫副委員長 石田清廉委員 岩本信子委員

小野泰委員 三浦英統委員 吉永美子委員

1 施設の目的

次世代を担う子どもたちを多世代で育み、もって子どもの健全な育成と子育て家庭の支援を図る。

2 施設の概要

平成 26 年 3 月 31 日オープン 下関駅ビル 3 階フロア全体面積 2,676.38 m²

①プレイランド 就学前の子どもたちと保護者のための遊び場 (無料)

②交流スペース・クリエイティブブランド 子どもから大人まで気軽に集えるスペース

③多目的スペース 様々なプログラムを実施。ほか貸室としても利用 (有料)

④こども一時預かり室 専門の保育士が預かる。料金一人 600 円/H (土日祝は 700 円)

⑤相談室子どもや子育てに関する相談を随時受け付け

3 利用状況 (平成 27 年 3 月)

来館者 249,940 人うちプレイランド 165,931 人 市内 72.9% 市外 27.1%

54,000 世帯のうち宇部(3,156)・山口(1,760)・山陽小野田(1,688)で約 9,000 世帯の来場があった。

4 事業の概要

①遊び・体験学習事業

②子育て家庭支援事業

③地域活力増進事業

④郷土文化伝承事業を基本に、指定管理者の自主事業もある。

5 管理運営 指定管理者下関子ども未来創造ネット

①社会福祉法人事業団

②丹青社(株)設計、施工

③NPO 下関子ども子育てネット(梅光大が主体)

6 考察

①H15 年 JR 鉄道関連施設整備推進協議会を設置し「下関駅にぎわいプロジェクト」構想計画し実現化した。

②年間 10 万人の予想が 25 万人となった市外からの来館者が多く JR 下関駅で大型商業施設隣接していることが貢献している。

③子育て支援施設等は交通の利便性と人が集まる場所が立地として最適であるが、旧町地域からの来館者は少ない。

④地域活力増進事業として地域の大学と連携して「ふくっ子大学」を開設し子育てや支援の育成をしている。

⑤冠婚葬祭・子育て中のリフレッシュや急なお出かけなどの、子ども一時預かり事業は 938 名の実績があり需要があることがわかった。

⑤子育て勉強会やベビーサロン等で子育て・親育ちプログラムの実施をしている。

⑥施設全体は下関をイメージした装飾がされており、色使いも薄い色で柔らかく子どもと一緒にゆっくりできる環境になっている。

7 提言

民生福祉委員会では、これまでに滋賀県大津市や愛知県豊田市などの子育て支援センターの視察をしてきた。豊田市では百貨店が入っている駅前ビルにあり、子供をつれた若いお母さんが多かった。また大津市では、やはり商業施設の中にあり、幼児が多く遊んでいた。考察として、子育て支援は日常の延長で行きやすい場所に設置することが重要だと考えていた。昨年4月に開設された下関市の「ふくふくこども館」は市内外から多くの人を集めており、子育て支援の需要の高さが窺える。子育て支援は定住促進にもつながり、まちづくりの重要政策であると再確認をした。

下関市では管理経費として約120百万円/年の予算が計上されている。下関駅にぎわいプロジェクトの中の1事業として運営しており施設管理負担金等が50%で指定管理料は約60百万円である。本市でも一定の予算は必要だが、下関市とは環境条件が違うので大きな経費をかけなくても、同様の子育て支援を大型商業施設サンパークで実施することができるのではないだろうか。当市の中では生活の延長線上で最も若い人々が集まる場所であり、子育て支援関連の事業設置場所として最適だと考える。また商業開発事業にも一役買うことにもつながるのではないか。子育て支援の目玉施設として検討を要する。

